

機関番号：32641

研究種目：基盤研究(A)

研究期間：2007～2009

課題番号：19203026

研究課題名(和文) グローバル化時代における「信頼感」に関する実証的国際比較研究

研究課題名(英文) A Cross-National Empirical Study of Trust in the Age of Globalization

研究代表者 佐々木 正道 (SASAKI MASAMICHI)

中央大学・文学部・教授

研究者番号：30142326

## 研究成果の概要(和文)：

「信頼感」に関する研究は社会学の根幹をなす重要なテーマであるものの、実証的裏付けがなされないまま主に理論的視点から研究が進められてきた。本研究では7カ国(米国・日本・ロシア・ドイツ・チェコ・トルコ・台湾)の「信頼感」に関する全国意識調査をもとに研究を行った。その結果、1) 2カ国(日本・台湾)を除く、5カ国でミシガン大学が開発した「信頼感」尺度が分析に適用できること。2) 親による信頼の社会化が7カ国共通に見られないこと。3) 信頼は互酬性の規範を7カ国共通に持たないこと。4) 信頼を形成するパーソナリティーの特徴は、共通点があるものの各国異同であることが明らかとなった。

## 研究成果の概要(英文)：

Trust is an important research theme which forms one of the bases of sociology. Nonetheless, trust has been and continues to be treated primarily as a theoretical issue rather than one with empirical underpinnings. The findings of the present study, based on nationwide surveys among seven nations (the United States, Russia, Japan, Germany, the Czech Republic, Turkey and Taiwan), can be summarized as follows:

1. Speculation about an interpersonal trust scale based on three questions as developed by the Institute for Social Research at the University of Michigan was validated for five nations, but not for Japan and Taiwan.

2. Parental socialization of trust (or distrust) significantly impacts later adult trust (or distrust) among five nations, but not in Japan or Taiwan.

3. Trust as a norm of reciprocity was not identified as a universal phenomenon among the seven nations.

4. Finally, the bases of trust, at least from a personality perspective, were found to vary among the seven nations, though there were some commonalities.

## 交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	3,300,000	990,000	4,290,000
2008年度	17,800,000	5,340,000	23,140,000

2009年度	11,500,000	3,450,000	14,950,000
年度			
年度			
総計	32,600,000	9,780,000	42,380,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：社会学・社会学

キーワード：信頼感、国際比較研究、意識調査、グローバル化

### 1. 研究開始当初の背景

「信頼」は社会学において根幹をなす重要な研究テーマであり長い間研究の対象として多く議論されてきた。しかし「信頼」は漠然として測りたいものであると捉えられ、実証的裏付けのない理論的論争が中心となって現在に至っている。そこで「信頼」を社会・文化的要素と関連付け、その定義を多元的に捉え実証的知見を得ることが緊急の課題となった。

### 2. 研究の目的

- 1) 「信頼感」の尺度構成
- 2) 「信頼感」の構造に関する基礎理論の構築
  - ①対人関係における「信頼感」の構造の解明
  - ②各国内の社会集団における「信頼感」の構造の解明
  - ③多様な文化・社会システムにおける「信頼感」の構造の解明

### 3. 研究の方法

「信頼感」のレベルの異なる7カ国を選び、それぞれの国において「信頼感」に関する全国規模の意識調査を実施し、統計分析（主にコレスポネンズ分析）を行い、既存の調査データと比較する。

### 4. 研究成果

本研究では7カ国（米国・日本・ロシア・ドイツ・チェコ・トルコ・台湾）において、「信頼感に関する意識調査」のプリテストおよび全国（約1,500サンプル/ロシア、約1,000サンプル/他の6カ国）調査を行った。調査はランダムサンプル抽出による面接法により、各国の委託調査機関が2008年度と2009年度に実施し、データをコレスポネンズ分析で分析した。

その結果、次の点が明らかとなった。

1) 米国、ロシア、ドイツ、チェコ、そしてトルコの5カ国においてはミシガン大学が開発した信頼尺度が分析に適用できることが分かった。使用された質問項目は、①「たいていの人は、他人の役にたとうとしていると思いますか、それとも自分のことだけを考えていると思いますか」②「他人は機会があれば、あなたを利用しようとしていると思いますか、それともそんなことはないと思いますか」③「あなたは、たいていの人は信頼できると思いますか、それとも、用心するにこしたことはないと思いますか」である。この尺度によると米国とドイツは信頼度の高い国で、ロシア、トルコ、そしてチェコは信頼度の低い国であることが分かる。しかし、日本と台湾については、この尺度は適用できない。

2) 親による「信頼感」に関する社会化が成人してからの「信頼感」につながっている

国は米国とドイツで、親による「不信感」に関する社会化が成人してからの「不信感」につながっている国はロシア、チェコ、そしてトルコで、親による「信頼感」と「不信感」に関する社会化の影響が日本と台湾においては見られなかった。質問は「子供の時(両親)からたいていの人は信頼できる、それとも、用心するにこしたことはないと教えられましたか」である。

3) 「信頼感」が互酬性の規範に基づくかどうかについては、各国に共通性が見られないことが明らかとなった。特にチェコについては「信頼感」の互酬性は見られない。ロシアとトルコは「信頼感」の低い国(上記1))であり、この3)の結果と合わせるとなかなか他人を信用しないが、一旦信用すればその度合いが強くなる傾向が読み取れる。質問として用いられたのは、「たいていの人は他人から信頼された場合、同じようにその相手を信用するという考え方についてあなたはどう思いますか」である。

4) 「信頼感」を形成するパーソナリティーの特徴は、部分的に共通点があるものの各国異同であることが明らかとなった。「人と信頼関係を築いていく上で、お互いの性格で重要だと思うものはなんですか」の質問に対して、重要と思うものの項目として挙げられた割合の高いものは、「人や物事に対して公平である」、「気さくである」、「責任感がある」、「寛大である」、「正直である」、「約束を守る」、「言行が首尾一貫している」、「思いやりがある」、「頼りになる」の9要素である。ドイツにおいては、「気さくである」と「頼りになる」こと、米国においては「正直」であること、ロシアにおいては「言行が首尾一貫している」と「責任感がある」ことが上位にくる。しかし、トルコ、チェコ、そして台湾では際立った要素はない。また、

他国と比べ特徴的なのは日本のケースで「思いやりがある」と「約束を守る」が上位で、「信頼感」を形成するパーソナリティーとして人間関係を重視していることが分かる。

本研究は、今後ますます進展する世界のグローバル化における国際理解と国際協調に欠くことのできない「信頼感」についての知見を得るものである。「信頼感」に関する研究は、これまでも社会科学の広範な分野で行われてきたが、本研究のように文化・宗教を異にする人々の意識構造との関連で捉えた実証的研究は皆無であり、新たな研究の進展に寄与すると思われる。

今後は、さらに本調査データの分析を進め、調査対象国の文化・宗教そして社会構造との関連性を追究し解明していく。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 14 件)

- ① Sasaki, Masamichi, “Cross-National Studies of Trust among Seven Nations,” in Sasaki, Masamichi and Robert Marsh (eds.) *Trust: Comparative Perspectives*. Leiden, Netherlands: Brill Academic Publishers, 2011. 査読有 (forthcoming)
- ② Sasaki, Masamichi, V. Davydenko, Y. Latov and G. Romashkin, “Trust as an Element of Social Capital in Contemporary Russia.” *Universe of Russia ROS PECHAT*. vol. 19, No. 2: 78-97, 2010. 査読有
- ③ Sasaki, Masamichi, Y. Latov, G. Romashkin and V. Davidebko. “Trust in Modern Russia.” *Macroeconomic Policy, Voprosy Ekonomiki* No. 2: 83-102, 2010. 査読有
- ④ Sasaki, Masamichi, V. Davidenko et al. “Problems and Paradoxes of Institutional

Studies. vol.1, No.1:20-35, 2009. 査読有

⑤Yoshino, Ryozo, “Reconstruction of Trust on a Cultural Manifold: Sense of Trust in Longitudinal and Cross-National Surveys of National Character.” *Behaviormetrika* vol.39:115-147, 2009. 査読有

⑥田野崎昭夫「スミスの道徳哲学における信頼の社会学」『中央大学文学部紀要：社会学・社会情報学』（通巻233号）第20号 2010年3月発行、p.117～130. 査読無

⑦田野崎昭夫「信頼社会学の基礎的考察-ロックの『政府二論』を中心に-」『中央大学文学部紀要：社会学・社会情報学』（通巻228号）第19、2009年3月発行、p.79～86. 査読無

⑧田野崎昭夫「信頼の社会学に関する基礎的考察 -ホッブズの近代自然法論を中心に-」『中央大学文学部紀要：社会学・社会情報学』（通巻223号）第18号、2008年3月発行、p.89～98. 査読無

⑨石川晃弘「チェコにおける社会的信頼感とその関連要因」佐々木正道編『グローバル化時代における「信頼感」に関する実証的国際比較研究』科学研究費補助金研究成果報告書 2011年9月. 査読無

⑩森秀樹 「「ドイツ統一」からみた「安心」と「信頼」」佐々木正道編『グローバル化時代における「信頼感」に関する実証的国際比較研究』科学研究費補助金研究成果報告書 2011年9月. 査読無

[学会発表] (計 3件)

①Sasaki, Masamichi, “Social Trust in Contemporary Japan.” International Institute of Sociology (IIS) 2009年6月12日 エレバン国立大学  
②Sasaki, Masamichi,

“Trust:Cross-National Analysis,” International Institute of Sociology (IIS) 2012年2月 ニューデリー (発表決定)

③Sasaki, Masamichi, ” Cross-National Studies of Trust among Seven Nations,” International Sociological Association (ISA) 2012年8月 ブエノスアイレス (発表決定)

[図書] (計 3件)

①Sasaki, Masamichi and Robert Marsh (eds.) *Trust: Comparative Perspectives*. Leiden, Netherlands: Brill Academic Publishers. 2011(in press).

②吉野諒三・林文・山岡和枝『国際比較データの解析』朝倉書店 2010年

③Sasaki, Masamichi (ed.) *New Frontiers in Comparative Sociology*. Leiden, Netherlands: Brill Academic Publishers. 2008.

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

佐々木 正道 (SASAKI MASAMICHI)  
中央大学・文学部・教授  
研究者番号：30142326

### (2) 研究分担者

吉野諒三 (YOSHINO RYOZO)  
統計数理研究所・データ科学研究系・教授  
研究者番号：60220711  
(H20に連携研究者へ変更)

安野智子 (YASUNO SATOKO)  
中央大学・文学部・准教授  
研究者番号：60314895  
(H19：研究分担者、H21：連携研究者)

首藤明和 (SHUTO TOSHIKAZU)  
兵庫教育大学・学校教育研究科・准教授  
研究者番号：60346294  
(H20に連携研究者へ変更)

水上 徹男 (MIZUKAMI TETSUO)  
立教大学・社会学部・教授  
研究者番号：70239226  
(H20に連携研究者へ変更)

森秀樹 (MORI HIDEKI)  
兵庫教育大学・学校教育研究科・准教授  
研究者番号：00274027  
(H20に連携研究者へ変更)

矢野善郎 (YANO YOSHIRO)  
中央大学・文学部・准教授  
研究者番号：70282548  
(H20 に連携研究者へ変更)

(3) 連携研究者

田野崎昭夫 (TANOSAKI AKIO)  
中央大学・文学部・名誉教授  
研究者番号：90055062

石川晃弘 (ISHIKAWA AKIHIRO)  
中央大学・文学部・名誉教授  
研究者番号：80055178